

つくしだより



東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

http://www.tsukushi.sakura.ne.jp/

発行者 眞壁 博美

2019.11.15 第352号

令和元年 11月号

みんなねつと関東ブロック茨城大会
報告

都連理事 大山 竹彦

10月30日(木)茨城県水戸市ザ・ヒロサワ・シテイ会館小ホールにおいて開かれました。関東全域から385名の参加者が集い、盛大に開催されました。今回は『ひかり差し込む明日を目指して』サブタイトル、内なる偏見を捨て生の声をテーマに開かれました。

みんなねつとは設立以来、家族と本人のために制度の見直しの取り組みを行ってきました。そのひとつが交通運賃割引対象の拡大運動でした。国会請願を継続してきましたが3年連続不採択でしたが、本年ついに衆参両院の国土交通委員会で採択されました。と本條理事長より、共に喜びたいとの挨拶がありました。

プログラムとしては、基調講演、活動報告2件、芸能2件でした。

基調講演は、この度、高校教育の課程の中に「40年ぶりに精神疾患教育」が復活することもあり、『精神疾患を正しく理解するための早期教育の必要性について』を愛知県立大学看護学部山田浩雅氏が講演。

1、何故、精神疾患教育が進まなかったか、その影響は。(40年近く精神疾患への取り組みがなく偏見を生む素材になっていた)、精神保健教育の社会問題が解決されない理由(病气自体の問題異変に気づきにくい、相談しにくい、予防活動がされない、国の担当がバラバラである)、精神疾患の特徴と発症年齢、差別・偏見の生まれるメカニズム・教育(悪循環を断ち切れる)、精神疾患教育の導入への面接調査(名古屋市家族連合会に早期教育的介入についての研究取り組み)

2、学校での精神保健教育の必要性(自分が不調になった場合だけでなく、友人が困ったときにも支え手になれる、未治療期間を短くし早期介入を実現出来れば、その後の人生がより良いものになる可能性がある)

3、海外の精神保健教育の取り組みの内容を紹介(オーストラリア・イギリス(イングリランドとウェールズ)・カナダ・アメリカ・学校だけでなく地域全体への働きかけから生徒への個別対応まで網羅するシステムが構築されていることを説明された。地域活動が効果的で有り且つ楽しそう)

4、高校の保健体育に「精神疾患の予防と回復」が入りました、今後への取り組み(いずれ中学校・小学校教育にも波及)、子ども・教員・保護者の知っておくべきこと【①この不調・病気は思春期から急増する、②この不調・病気は誰でもおこる、③この不調・病気には生活習慣が影響する、④一人で抱えず、早めに相談すること】、どう伝えるか具体的な教材は(この健康教室サニタ・HP)、

5、家族会の皆さんにお願いしたいこと【①行政への働きかけを!、家族会は大きな影響力があります、②教育の場で生の声を!啓発を、③個々の強みを皆で分かち合う!安心、④家族の皆さんのこのころと体の健康の維持・増進)自らの健康生活を!】。

活動報告は、「マル福活動に参画して」多田公樹氏、「このころの健康講座事業について」水戸地区精神保健福祉会事務局長清水紀弘氏の2件の報告でした。



東京つくし会家族学習交流会

31家族会53名が活発な討論

家族会は貴重な社会資源であることを確認

都連理事 川崎 洋子

日 時…2019年11月1日(金)

13時半から16時15分

場 所…東京都障害者福祉会館

テーマ…「家族会の高齢化と運営について」

参 加…31家族会 家族53名

(中央区つつじ会、文京家族会、すみだ会、板橋区はすね会、あしなみ会、オリーブ会、練馬家族会、品川かもめ会、大田区つばさ会、世田谷さくら会、渋谷太陽の会、杉並家族会、新宿フレンズ、あかね会、立川麦の会、やすらぎ会、あおき会、ほっと・スマイル、梅の木会、アットホーム歩歩、かささぎ会、あじさい会、小平市けやき会、むさしの会、日野いずみ会、小鳩会、狛江さつき会、蒼空会、シユロの会、稲穂会、第二金曜会)

参考資料…2019年立川麦の会仕事分担一覧表

▲つくし会からの意見

・家族会の推移としては、近年の高齢化で減り、現在は48家族会、会員は約1000人となっている。

・家族会の行動を前進させるためには、新しい役員で会の雰囲気を変え、また、会の仕事を会長任せにしない。

・会の仕事を整理・分担して、会長の役割を軽減するようにする。

・これからの家族会としては、会員を増やす工夫をしながら、当事者、発達障害団体などと連携を取っていく。

▲2つの家族会の報告

・世田谷さくら会は、様々な問題を抱える中、古い理事を改め新理事を選出。新理事長は80代役員や重い障害者を抱えている人の役員は無理と考え、自分はパソコンはできないができる人に助けってもらうことによつて解決できている。楽しく助けられながらやっている」と報告。

・かささぎ会の代表は、弟が当事者。今の時代は情報(制度など)はネットなどで得られるが、実際生活している当事者の日常生活の様々な相談やサポートができるのは家族会だと思う。家族会は社会資源であり、無くしてはならないと思う。家族会での課題を行政に挙げるために、議員や関係団体と連携を取ることに必要性を痛感している。

▲グループワークの意見など

・家族会の高齢化は仕方ないことであるが、家族会の課題を周知するために議会傍聴などとして、議員との関係性を作る、また他団体との連携を深め、一緒に活動するようにする。

・情報は入りやすいが、その活用法や手続きなどは、家族会で知った。家族会は地域の

社会資源と認識する。

・会長の負担をなくすため、会の仕事を一覧にして、できるだけ多くの人が参加できるようにする。

・互いに助け合う精神で役割に臨む姿勢が大切。

・時には、食事会や外出をして、気分転換を図り、楽しく会の運営をすることは、会の発展につながる。

以上、様々な意見交換がされました。それぞれの地域性もあり、すべてがその家族会で活用されるとは限りませんが、これならやってみようという新しい風を呼び込む一端となればよいと思います。



東京つくし会電話相談室



東京つくし会の理事(家族)が交代でさまざまな相談に応じています。

電話 03-3304-1334

毎週水曜日(祝日は休み)

11:00~16:00

※当相談室は、面談による相談はお受けしていません。

また、相談の内容によって、別途お時間を

ＪＲ東日本本社への要請活動報告
都連会長 眞壁 博美

10月21日（月）17時半から約30分間、新宿駅南口にあるＪＲ東日本本社を訪問し、「精神障害者も身体・知的障害者同等に交通運賃割引制度の適用を求める要望書」を渡し、意見交換をしました。

家族会からは、関東ブロック（神奈川・千葉・茨城・埼玉・栃木・群馬・東京）都県連の代表13名と、経済産業副大臣・衆議院議員 牧原秀樹氏と秘書にも同席して頂きました。都連からは、私と中住副会長が出席しました。ＪＲ側からは、阪本未来子常務執行役員をはじめ4名の方々が対応しました。

自己紹介後、要望の要旨を説明し、まずは、ＪＲ東日本側のお話を伺いました。

ＪＲ東日本では、お客様が鉄道を安心して利用できるように、ホームドアの設置、困っている方への声かけサポート、ＪＲ東日本アプリのリニューアル、介助犬のトイレ設置などサービスの向上に努めているとのことでした。

交通運賃割引についての歴史的な経緯を見ると、身体障害者には、国鉄時代から割引制度があり、ＪＲに移行する時も、割引制度を引き継ぐように指示されたようです。知的障害者割引制度は、平成3年12月から割引が開始されました。

身体・知的障害者の割引は、介助者が必要なので、2人で1人分の交通費負担という考え方で実施してきましたが、精神障害者の場合は介助者がいなくても利用できるのではないかと、割引する人をどこで線引きしたら良いのかは難しい問題で、要望として伺いましたとのことでした。

国会の衆参両院で請願は通りましたが、実施するかどうかを決めるのは民間事業者です。これからの運動は、世論を味方につける運動が大事だと思いました。

初めて行う病院家族会交流会に
多くのご参加を！
都連副会長 中住 孝典

●病院家族会交流会

12月6日（土）13時半から16時

東京都障害者福祉会館B・1室

現在、東京つくし会加盟の精神科病院・クリニックの家族会は8団体です。

今回の企画は当つくし会加盟の病院家族会の方々だけでなくつくし会に属していない精神科病院や精神科クリニックなどで家族会のあるご家族や家族会という形ではなくても家族教室や家族交流会などを定期的に行い、そこに参加されているご家族に対しても参加の呼びかけを行い、医療機関に対

してもその主旨に対するご理解とご家族の参加協力に対するお願いを行っております。東京つくし会加盟の家族会は、高齢化の問題やリーダーの引き継ぎができずその継承が上手くない等課題もあります。その反面幾つかの家族会では次世代にリーダーが引き継がれ地域の社会資源として活躍しているところもあります。また新たに家族会を発出し地域の中で家族の拠り所として活動を進めているところ、一度活動を休止しましたが地域家族会が必要という事で家族会復活の動きを見せているところもあります。いずれにしろ家族会は今新たな推進力をどう養っていくのか大きな過渡期を迎えているのかもしれない。病院家族会もご家族の高齢化や継続性、病院家族会独自の運営の難しさなど色々な課題を抱えているかもしれません。病院家族会は病院単位の家族会のため（地域の家族会にも参加されているご家族はいると思われませんが）病院家族会同士の横のつながりがもちづらという面もあります。病院家族会交流会を横のつながりを養い、今後の家族会活動の在り方や情報の共有を行い明日につながる意見交換を行ってみてはいかがでしょうか。家族が孤立せず明日に向かうため家族会の存在はとても大切です。色々な機会をもちながら横のつながりを皆で育て合っていきませんか。皆様の参加をお待ちしております。

府中梅の木家族会

「憩いの部屋」事業の取り組みについて

都連理事 小澤 輝江

本日は梅の木家族会の当事者会のスタッフ当番日です。毎回訪れる当事者の顔ぶれは替わりますが、皆さん、個性豊かな達人ばかりです。

まずは現在グループホーム滞在中のSさん、自作の本を出版した持主でグループホーム卒業の暁は独立する為に綿密な計画を立てている。お隣に座っている鉄道マニアのNさんとは小中学校が同じだったこともあり懐かしげに話が弾んでいる。

イラストが得意なKさんはこの場所でも皆さんのお話を聴きながら描いています。

Mさん夫妻は本年1月に相談に訪れた時とはうって変わって、こぼれ落ちそうな笑顔で皆さんと談笑しています。隣りの奥さまは殆んど回復している様に見受けられます。

Tさんはじっくりとお話をする方でも良識のある方だとお見受け致しました。

本日の類まれな達人は女性Sさん、うつ病と吃音、脳性麻痺で左脚が不自由ですが薬のお陰で歩けます。12才のお子さんと共に優れた感性と叡智で数々の困難を乗り越えて来た体験を聴く度に度肝を抜かれる程の驚きです。障がいを撥ね退け、生きる姿勢がなんとも素晴らしい。

講演会のお知らせ

☆11/23(土) 13:30~16:00 地域ケアトリカバリー 生活の質を高めるために医療は何かできるのか
講師：地域ケアこころの診療所院長 武田 充弘氏
会場：北沢タウンホール3階 ミーティングルーム 先着70名
主催：世田谷さくら会 ☎03-3308-1679

☆12/14(土) 抗精神病薬のタイプと使い方
講師 大泉病院社会医療部長 精神科医 山澤涼子氏
会場：新宿区立障害者福祉センター 主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆ 賛助会費 ☆(敬称略)
大倉診療所 5000円
榎本クリニック 10000円
ありがとうございます。



編集後記

ラグビーワールドカップは日本中に大きな興奮を巻き起こしています。今回はラグビー談義させて頂きます。私事ながら、今から六五年前に高校ラグビーで、第一列を担った頃を懐かしんでいます。後日、ロンドンに行った際にラグビー校の校庭にエリス少年像を見に行きました。

現代ラグビーは、ルール改正により高速化されており試合運びのテンポが速い。そして、プレーヤーの多種多様性も南北の格差解消に大きく貢献しています。

しかし、ラグビーの醍醐味はトライによる得点でしょう。ペナルティーキックによる得点では味気ない。5点と3点の差以上です。

その良い例がペナルティーキックを狙わずトライを取りに行ったのは前回のワールドカップで南アフリカ代表と戦った日本代表でした。残り時間0分という場面で、同点のペナルティーキックを狙わずトライを狙いに行き逆転勝利を収めたのは日本ラグビーの歴史を塗り替えた試合でした。今回の南アフリカ代表は更に強くなっており、日本はベスト8の初戦で完敗しました。そして、決勝戦に進み、イングランドとあたります。イングランドの監督はエディ・ジョーンズです。日本が今回の主催国になった因縁を感じます。ビバ日本ラグビー！

都連理事 松沢 勝

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。